

氏名	瀬 崎 宏 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3529 号
学位授与の日付	平成12年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	MRI画像による術前子宮頸部扁平上皮癌の腫瘍体積の測定と 子宮外進展との関連性
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 赤木 忠厚 教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

術前治療を行っていない子宮頸部扁平上皮癌40例（Ib期20例、IIb期20例）の広汎性子宮全摘術及び両側骨盤リンパ節廓清術症例に対し、術前のMRI画像より腫瘍体積を測定した。またMRIによる腫瘍体積測定値とわれわれが考案した腫瘍体積測定法による手術摘出物の腫瘍体積測定値を比較検討した。T2強調画像を得るための撮像方法は矢状断とした。MRI画像をコンピュータに画像入力後、子宮頸部を拡大し、各スライスに描出された腫瘍の断面積を測定し、スライス厚で積分して腫瘍体積を算出した。描出腫瘍体積の最小値は524mm³であった。測定可能30例のうち腫瘍体積が3,000mm³以上の腫瘍は23例ありそのうち22例（95.7%）に病理学的子宮外進展を認めた。腫瘍描出陰性例の病理学的子宮外進展は認められなかった。MRI画像から算出した腫瘍体積の測定値と手術摘出物から得られた腫瘍体積測定値との測定誤差は9.10±6.62%(M±SD)であり、良好な相関が得られた(r=0.997, P<0.001)。以上より、子宮頸部扁平上皮癌において術前のMRI画像から腫瘍体積を正確に把握すれば、治療前に子宮外進展を予測することが可能であり、従来と異なった治療の個別化または手術の縮小化の可能性があることが示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、術前治療を行っていない子宮頸部扁平上皮癌40例（Ib期20例、IIb期20例）の広汎性子宮全摘術及び両側骨盤リンパ節廓清術症例について、術前のMRI画像より腫瘍体積を測定し、手術摘出物の腫瘍体積測定値と比較検討した臨床的研究である。その結果、両者の測定誤差は9.10±6.62%(M±SD)であり、良好な相関(r=0.997, P<0.001)が認められることを明らかにした。これらは、本症の術前のMRI画像から腫瘍体積を正確に把握すれば、治療前に子宮外進展を予測することが可能であることを示唆した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。